

日本子育て学会研究プロジェクト基準

- ① 個人研究の斡旋機関ではない。
- ② 研究者・子育て実践者・子育て支援者が三位一体となれる共有領域の発見を強調する。
- ③ 共有領域を探索する中で、三者がそれぞれ変化する可能性を追求する。プロセスを重視すると共に、その過程を記述することが研究報告になることを確認する。
- ④ 従来型の個人研究に比べ研究の効率は劣るかもしれないが、新しい分野や領域が発掘されたり、新しい研究方法が開発されたり、提案型の新しい形で、何らかの子育て運動が発展される可能性が潜んでいる事を強調する。
- ⑤ 三者がそれぞれの思いや興味をそれぞれの言葉で自由に開示する中で、共通項を探すと共に、三者のそれぞれの興味を満たす事を考慮する。